

ラーニング・サポーター ♪ 9月のつぶやき -JWUラーニング・コモンズさくらより-

図書館 2 階 JWU ラーニング・コモンズさくら(以下「さくら」と略)では、学科・専攻推薦を受けたラーニング・サポーター(本学大学院生)が学修相談を受け付けます。学修相談以外にもミニ講座の開催や「さくら」の活動支援をしながら、感じたこと、思ったことを「つぶやき」、本学学生の皆さんに学修相談に訪れてもらいたいと思っています。ラーニング・サポーターは「さくら」で皆さんをお待ちしています！

<9月のつぶやき♪INDEX>

p1 趣味は何ですか @M.A.(人間発達学専攻(児童)博士課程後期3年) 9月25日 up

p1 「光」を求めて美術館へ @S.N.(英文学専攻博士課程前期) 9月11日 up

つぶやき1 ♪ 趣味は何ですか

初対面の人と互いに自己紹介をしあうとき、趣味を聞かれることがよくある。「趣味」にはいつも困っていて、いろいろ好きなことはあるけど胸を張って言えるものはないんだよね…と思ってしまう。難しく考える必要はないとわかっているが、相手に「釣りが趣味です」と言われた後なんかだとも話にくい。パツとは思いつかない〜と話すと、人類全員に趣味があると思っているのか、とても驚かれる。

小学生の頃は四六時中、本を読んでいた気がする。あの頃だったら、趣味は読書ですと自信満々に言えた。多分活字が好きで、お風呂の時間、湯船につかると手持ち無沙汰になって風呂場にある機械の注意事項をひたすら読んでいたりしていた記憶がある。今でも一人でご飯を食べていると無意識に何か読めるものを探している時がある。

活字が好きなことは変わらないのかもしれないが、小学生の頃とは違って、本を片手間に生活することはなくなった。今は気合を入れないと一冊の本を開けない、ということが増えた。本だけではなく、たくさん溜まっている観たかったドラマたちの1話目もなかなかつけないことができる。

何かを楽しもうとする力が失われているなあと感じたとき、思い出す映画のシーンがある。観ると文句を言いたくなる…イライラする映画だが(カテゴリー的には恋愛映画?)、私のイライラは本題とは関係ない。大学生のころ小説や漫画・舞台が好きだった男性主人公が、就職して激務に忙殺されるようになる。見かねた恋人が本(小説)を主人公に渡し、「息抜きすればいいじゃん！」と言うと「趣味が息抜きにならない！パズドラしかできないんだよ。」と答えるシーン。

忙しくなって精神的にも体力的にも余裕がなくなってくると、好きだった小説や漫画に興味を持てなくなり、携帯ゲームしかできなくなるらしい。私はここまでの状況になったことはないけれど、読みたい本があっても読めないという無気力な状態になることはたまにある。趣味なのに体力を溜めないと取り掛かれないとは…そもそも「取り掛かる」なんてタスクやノルマみたいな言い方をするようじゃ趣味とは言えないのでは？自己紹介の「趣味」には当分困りそうである。

つぶやき2 ♪ 「光」を求めて美術館へ

皆さん夏休みはいかがお過ごしでしょうか。私は夏休みが始まる頃、図書館に通い詰めの毎日を想像して張り切っていたのにもかかわらず、実際はというと8月の半分以上は病院と自宅を行ったり来たり…全く、うまくいかないものですね。9月は体調を万全にして論文執筆に励んでいきたいところです。

さて、今回は東京・国立新美術館で行われている企画展「テート美術館展 光 ―ターナー、印象派から現代へ」のご紹介です。この企画展のテーマはタイトルの通り「光」です。18世紀から現代にいたるまでの光の表現方法や描写技

人間生活学研究科 人間発達学専攻
博士課程後期3年(児童学)

- 経歴
本学 家政学部児童学科 卒業
本学 家政学研究科児童学専攻(修士)卒業
- 資格
保育士/幼稚園教諭/小学校教員
- 研究分野
「向社会的行動(思いやり行動)」について研究
幼稚園や小学校にて参与観察を行い、質的分析を行っています

「進路に向けて何をしよう?」
「研究テーマはどうやって決める?」
「教職は大変かな?」など…
気になっていることはありませんか。
勉強や研究のことなど、
誰かにお話したいないうきにお気軽に声がけください♪



法の変遷を感じ取れる企画展になっています。芸術作品における光の変遷を大きく3つに分けており、西洋美術の所謂“偉い絵”の題材である聖書や神話の伝統を引き継いだ啓蒙時代の絵画に描かれる光、そしてグランドツアーやピクチャレスクへの関心の高まりから自然を美的なものとするロマン主義時代の風景画における光、そして科学技術の発展や都市化が進むことで部屋の中に射し込む光や写真・オブジェを駆使して表現された19世紀末から現代における光といった、200年に渡る芸術作品に見られる光の軌跡を俯瞰することができます。

美術館を訪れる際、企画展の趣旨の理解はもちろんなのですが、ぜひ学芸員の方々による「展示の構成」という視点からも楽しんでいただきたいです（私は博物館や美術館を訪れる度にその構成員に感心しています！）。企画展の趣旨を伝えるために学芸員の方々の専門知が最大限に活かされており、一つ一つの絵画が意図的に並べられることで展示室が生まれ変わります。ですので、ぜひ案内された順序に従って作品を見て下さいね。また、学生証を持参すれば学生価格で入館することができますのでお忘れなく。まだまだ残暑が続きますので皆さまも体調管理を徹底し、残りの夏休みを有意義に過ごしていきましょう！

国立新美術館：企画展「テート美術館展 光 —ターナー、印象派から現代へ」

<https://tate2023.exhn.jp/>

✧ 文学研究科 英文学専攻 ✧
Department of English Literature

✧ 自己紹介 ✧
英文学専攻 博士課程前期 2年

✧ 研究対象 ✧
18～19世紀イギリス詩：ロマン派詩人 William Wordsworth
(その他興味関心：ヨーロッパ古典文学、西洋哲学・思想史など)





✧ ひとこと ✧
英語・語学習得のコツ、レポート・卒論の不安点、資格取得や留学の相談、人文科学への関心など、学修相談上で困っていることを一緒に考えてみませんか？
お話ししたい内容がまとまってなくてもOKです◎
思い立ったらぜひ、お気軽にお越しください！
お会いできるのを心待ちにしています～☺



ラーニング・サポーターのつぶやき (2023年9月)

ホームページ <https://lib.jwu.ac.jp/lib/lc.ls.html>

編集：JWU ラーニング・commons さくら